



王祥
 母事へて孝あり或とき
 母生魚を飼ふことを
 求む

求む
 臥水

王祥



欲せども江ふ氷あり
 つめ魚を得る由あり
 されども孝心ありく
 寒中氷の上を臥
 心は魚を得んことを
 念ふければ氷王祥が
 臥するかちふとけ
 二ひきの魚むどりいぞ
 とうよろこびもち
 歸り母にまぐめける
 とぞ孝徳の
 天をんぜしむる
 かくのあと

郭巨

爲母埋子

郭巨、後漢の人あり、家
貧しくして老母をや
るゝ食の乏しきを
くみむ老母をまて
三歳の孫をわくま
て食を別ちて
あてあるや
郭巨、
巨夫
婦これを
うれひつひふその子を



埋めんとむる
黄金の二金を

得たり

其銘を曰く

天孝子郭

巨を賜ふと

これより家富て

まむ

孝行を

つらうと

子



庚黔妻

嘗冀憂心

南齊の人なりて王將陵と
いふところの縣令とあり
任所あやきと幾あどの
かくむるさきぎし身あ
汗出づればさとし
故郷の父の
身の上事
あらんと
官を



きて急ぎ家へ
歸り果して父
重き病を患ひけ
る皆くその早く
歸れるをぶくりけ
り
一決策
を語り
父病て二
日あけ醫師
の云ける其の味
苦ければ治まじ
甘ければ治まじ
と自くら其糞を



嘗むる味ひ甘うり
ければ大お力をかり
夕べあつて北辰
祈りて身代りと
あらんとを求む孝徳の
あまところつひふ
父の病癒



黄香

扇枕

温衾

黄香の後漢の人
あり家貧



とて酷く父の
事へ夏

父の床を扇ぎ

冬は我の躰を暖め

床をあそめ

父を臥さめけり

その孝徳世ま

うられあへり

朝お仕へて

官尚書令あり

魏郡の太守と

ありとぞ



姜詩

湧泉躍鯉

姜詩の後漢の人あり

識く母事ふ

そのつは龐氏もまゝ

姑の孝をつく

けり

母つねに

井の

水を

きらひ

江の水を好めども



家の近くふよき江の水

あきおより龐氏日々遠き

所より水を吸て来り母の

まゝむ或とき姜詩が家の

傍らふよき泉わき

出で江の水は異

あらずまゝこの水に

毎日二ひきの鯉を

びて母に奉つ

食のさそけと

あれりと





老菜子

戲絲娛親

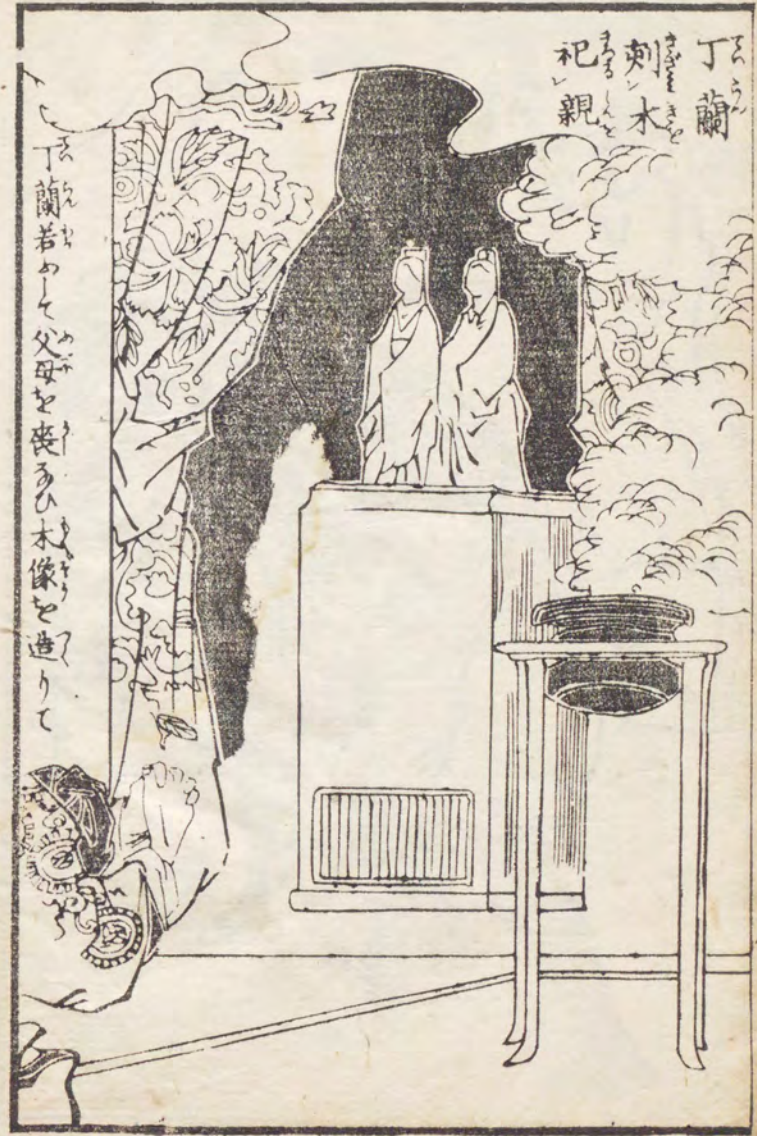


老菜子の身七十歳ふ
 りまれども父母いまだ
 存命ありは我が
 身の老ることを
 悲しむまゝ
 とを恐れ
 五色の衣
 ものを着て小兒
 の戯むれどあゝ我
 時の故らふ跌つき仆
 れて泣きあどそとより
 るさまを以てあらざる父母を

あぐさめしとぞ



丁蘭
刺木
祀親



丁蘭若くは父母を喪ふは木像を造りて



父母の在りし如くこれお事へり
張叔と云ふ人ありこれ
の留守に來り木
像を罵り且つ
首をう
ちぬ
丁蘭
歸りてその
張叔を打ちて傷つけければ官人これを牢屋に入れんとす
木像に向ひ別れを告げれば父母涙を流しけりとぞ孝心天に通じ
罪を免れけりとあり

孟京

泣竹

生

孟

賢

賢

賢

賢

賢

賢

賢



うらされて冬の日



孝

孝

孝

孝

孝

孝

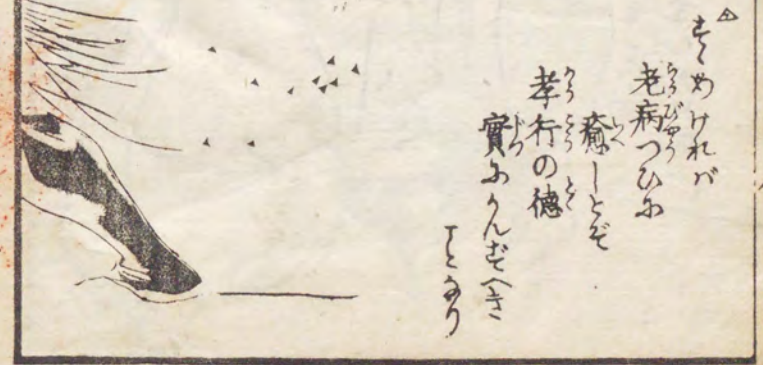
孝

孝

孝

孝

孝



九

竹の子を好む

孟に孝心あり

竹林に入り

天ふいの

て泣き

ふどき

ふ竹の子

忽ち雪を貫きて

生下り喜び

あり得て母

あり得て母



張孝 張禮 兄弟 讓生



これぞ
まて二人
生を譲り
やひてやま
さりけれ
賊その孝
心を感
米二石と
塩一駄を
あてし
と



あり此食をあてし
来んと約束し
兄の張孝



明治十六年十二月六日御届
 同 年十二月廿三日出版

編輯人

出版人

賣弘書肆

同

本所區横綱町二丁目九番地

富岡政徳

日本橋區濱町二丁目十九番地

島村吉松

同區馬喰町三丁目

島村利助

本郷區春木町三丁目

同 支店

裁縫問答

全一冊

小學女禮式

全一冊

児訃廿四孝

全一冊

假名入三字經讀本

全一冊

和古今英勇競 全一冊 近刺

